

# タイトル: 地域課題は我が事として ～お茶のみこそが「地域ケア会議」～

活動のアピールポイントを記入してください。

家族を亡くした方を励まそうと、2012年に自発的に毎月第3日曜日を定例に地域の高齢者の集いの場をつくり、現在も継続している。無理なく出来る中での生活支援を行い、会のメンバーによる見守り体制を強化するなどして、一度施設に入所した会員の在宅復帰を実現。また、お茶飲み話の中での課題、ニーズはお茶飲み時間で話し合い解決。困難な課題には、団体とも連携を図り柔軟に対応する姿勢もあり。活動にかかる一連の動きの中には、様々な介護予防の要素も含まれている。

①該当の取組を実施する事業者等についてご記入ください。

②取組の活動範囲を一つ選んで○をつけ、具体的な市町村名・地区名等を下にご記入ください。

名称: 栗原市若柳 東お茶っこ会

住所:

担当者名:

1. 複数の市町村にまたがる広域
2. 市区町村内の概ね全域
3. 中学校区単位
4. 小学校区単位
5.  自治会単位

取組み開始年度 平成 24年 取組に関わっている職員および担い手の数 職員 人 担い手 5人 具体的な範囲 栗原市若柳 米ヶ浦1区

③主な活動範囲となっている市区町村のデータをご記入ください。

⑤各属性ごとの利用者の有無とその各年度ごとの人数をご記入ください。(人数が不明確な場合はおおよその人数を「約」を付けてご記入ください)

| 地域包括支援センター設置数   | 直営       |   | 力所 | 利用者属性                       | 平成 30 年度 |   | 令和元年度 |   | 令和 2 年度 |   |     |   |
|---|----------|---|----|-----------------------------|----------|---|-------|---|---------|---|-----|---|
|   | 委託       | 5 | 力所 |                             | 利用者      | 有                                       | 無     | 利用者                                     | 有       | 無                                       | 利用者 | 有 |
| 総人口   | 65,048   |   | 人  | 全体                          | 16       | 人                                       | 16    | 人                                       | 16      | 人                                       |     |   |
| 65歳以上高齢者人口<br>(総人口に対する割合)   | 26,527   | 人 |    | 後期高齢者<br>(75歳以上)            | 利用者      | <input checked="" type="checkbox"/> 無   | 利用者   | <input checked="" type="checkbox"/> 無   | 利用者     | <input checked="" type="checkbox"/> 無   |     |   |
|   | 40.8     | % |    |                             | 11       | 人                                       | 12    | 人                                       | 12      | 人                                       |     |   |
| 75歳以上高齢者人口<br>(総人口に対する割合)   | 13,770   | 人 |    | 男性高齢者                       | 利用者      | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 利用者   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 利用者     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 |     |   |
|   | 21.2     | % |    |                             |          |   |       |   |         |   |     |   |
| 第7期1号保険料  | 月額 5,960 |   | 円  | 要介護高齢者                      | 利用者      | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 利用者   | <input checked="" type="checkbox"/> 無   | 利用者     | <input checked="" type="checkbox"/> 無   |     |   |
|   |          |   |    |                             |          | 2                                       | 人     | 3                                       | 人       | 3                                       | 人   |   |
| ④取組推進にあたって、自治体からの補助金・助成金の支給を受けていますか(または受けていましたか)。該当する選択肢に○をつけてください。     |          |   |    | 認知症高齢者                      | 利用者      | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 利用者   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 利用者     | <input checked="" type="checkbox"/> 無   |     |   |
|   |          |   |    |                             |          |   |       |   |         |   | 1   | 人 |
|   |          |   |    | 独居高齢者                       | 利用者      | <input checked="" type="checkbox"/> 無   | 利用者   | <input checked="" type="checkbox"/> 無   | 利用者     | <input checked="" type="checkbox"/> 無   |     |   |
|   |          |   |    |                             |          | 2                                       | 人     | 1                                       | 人       | 1                                       | 人   |   |
| 現在受けている かつて受けていたが現在は受けていない <input checked="" type="checkbox"/> 受けたことがない |          |   |    | 利用者(参加者)一人あたりのおおよその利用(参加)頻度 |          | 週                                       |       | 回                                       |         |   |     |   |
| 現在受けている場合、事業全体額に占める割合 (約 割)   |          |   |    |                             |          |   |       |   |         |   |     |   |

⑥ 取組が行われた背景・経緯・目的についてご回答ください。

背景 田畑が広がる農村集落。ほとんどの世帯で耕作をして暮らしている。地区内には日常生活に必要な資源はなく、買い物、通院についても、自家用車が生活には欠かせない地域である。

経緯 家族を亡くした方を励まそうと、毎月第3日曜日を定例に地域の高齢者の集いの場をつくる。高齢化率が高い栗原市では、お茶っこ会と称したサロン活動を推進している。

目的 地域包括ケアシステムの目指す、住みなれた地域で暮らし続けるために、普段の暮らしの中にある、お互い様の気持ちを生活支援とし無理なく行い、孤立させない、高齢者でも地域の一員、仲間として、排除しない。可能な限り自宅を暮らし続けていく為に自らで出来る取組みの実施。

⑦ 取組を行うにあたって、連携している(したことがある)組織・団体数をご回答いただき、それらの法人種別として該当するものをすべて選んで○を付けてください。

|                    |     |
|--------------------|-----|
| 連携している(していた)組織・団体数 | 4団体 |
|--------------------|-----|

- |   |                                   |
|---|-----------------------------------|
| 1. 社会福祉法人(社協以外)   | <input type="checkbox"/> 9. 学校法人等 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 2. 社会福祉法人(社協)       | 10. 自治体                           |
| 3. 営利法人(株式会社・有限会社)                                      | 11. その他の法人                        |
| 4. 協同組合   |                                   |
| 5. NPO 法人   |                                   |
| 6. 社団・財団法人  |                                   |
| 7. 医療法人   |                                   |
| <input checked="" type="checkbox"/> 8. 住民組織・ボランティア・町内会等 |                                   |

⑧ 具体的な取組内容をご回答ください(写真や図を自由に用いて作成してください。その際、取組における地域住民の関わり方や、他の組織・団体との関わり方が具体的に伝わるようにしてください。)  
※サービス提供にあたっての継続性や質の確保の工夫等もあればあわせてご記載ください。

- ・住民主体での高齢者サロン(東お茶っこ会)を毎月第3日曜日を定例に実施 9年間継続。
- ・財源は一回500円を集め自主運営。一部活動費に、栗原市社会福祉協議会の助成金を受けている。
- ・一日を手作り昼食付のサロンは一品持ちより。更に季節に合わせた主食を提供。自然の中の食材確保するため、山を散策、楽しみながらのウォーキング取り入れ介護予防の要素が含まれている。
- ・提供するために、野菜収穫、調理も会員が自ら行う。
- ・定例会以外でも、頻繁にお茶飲み場で情報を共有。
- ・地域の中にある、課題や、仲間のニーズに応じている。
- ・小さな、心配事や要望の声を聴き逃さずに、拾い上げ課題解決。
- ・他人事とせず我が事として、それは地域の事として捉え考え、取り組む気持ちを80歳、90歳の高齢者自身が持ち合せている。
- ・お茶のみの場合は、変化の早期発見の場にする。高齢者虐待発見。
- ・認知症かも…と疑われる仲間を排除せずに、寄り添い、見守り支援を更に強化。



⑨ 取組の評価を実施していますか。実施している場合は、具体的な内容をご回答ください。

当事例は、宮城県地域支え合い推進連絡会議の委員の講師の皆様からも、高評を得て、2019年2月に宮城県仙台市で開催された「宮城発 これからの福祉を考える全国セミナー」にて、会員自らが、ステージに登壇し活動を紹介した事例発表を行う機会に繋がったことで、評価実施を受けていることに価値を感じます。また、事業を通じて関わった高校の担当教諭が地域包括ケアシステムの構築を理解し、生活支援の一助を高校生に担う機会を授業の中に取り入れたいとの思いに膨らんだ。

⑩利用者(参加者)の生活状態・心身の状況や生きがい・社会的役割にどのような変化が見られているか、および利用者の日常生活の状況にどのような変化が見られているか、箇条書きで記載してください。

- ・設立時の会員16名が、9年経過の現在でも、在宅での暮らしを継続。施設入所から、独居でありながら在宅復帰を果たした。
- ・年齢を重ねる中でも、誰もが役割を持ち、今ある暮らしの中に楽しみを見つけ出し、「もう歳だから」という言葉は出さず、前向きに意欲に日々の暮らしを送っている。前向きな姿勢は、90歳の会員が積極的に発表でのステージ登壇を望むなど、定例活動の中でも「あれやりたい」「次はこれも」と社会参加を率先して行う姿勢がいたるところで見られる。90歳が、80歳を気にかけて、お互いの安否確認。それを身近な仲間が送迎支援等を通して支援を行っている。
- ・当たり前に行って来た活動が評価されることが、自信に繋がり、ますます健康維持を意識した生活習慣を送る。
- ・地域愛が強く、地域を守りたい、大切なことを伝えて行こうという、使命感をも感じ取れる。地元高校での教壇に立つ機会も出来た。
- ・会の代表者 長い人生経験を踏み、「もう80歳」ではなく「まだ80歳」との気持ちになり、毎日眺め仰ぐ山(栗駒山 1,626m)に80歳で登頂。自己実現を達成。
- ・仲間の目標達成にむけ、出来る中で、出来ることのサポート体制が確立されてきている。

⑪個別ケースを写真、図等を用いて自由に記載してください。

### 住民主体のケア会議事例 ①

もとこさん 90歳



- ・帰郷した息子夫婦と3人暮らし。
- ・以前1ヶ月入院、その後施設入所。
- ・お茶飲み仲間の話し合いの結果、
- ・見守りを強化することで、
- ・住み慣れた自宅で過ごせるようになった。

しかし・・・

田舎暮らしに馴染めない嫁に気遣い、これまでの、近所との付き合いが、薄れつつあった。

もとこさん(90歳)の生きがいと楽しみは、ご近所さんとお茶飲みでした。  
週3回のデイサービス通所と週末はショートステイ利用

### お茶飲み仲間の話し合い (地域ケア会議)

↓  
デイサービス以外の日は、もとこさんの家をお茶飲みの場にする。  
同い年のかしわさん(90歳)と、お茶飲みが出来るようにお茶飲みへ通う為の送迎サービスを開始。

普段のお茶のみの様子



東お茶っ会の誰もがこう話します  
『この地が好き、どこよりも良い地域』



地域愛に溢れている皆さんです

### 住民主体のケア会議事例 ②

ふじこさん

◇ある日のお茶飲みでの話題

- ・ふじこさん、近頃、おなじこと何回も何回も言う。
- ・この間は、のし封筒の中身が入ってなかった。
- ・お茶飲みに行って、コーヒー出すと言って、結局、コーヒーと砂糖探しばかりで、コーヒーは出でなかった。

◇近所づきあいが、疎遠になりかけた。

### お茶飲み仲間の話し合い (地域ケア会議)

- ◇家にもってばかりでは、だめになる。
- ◇みんなで、今までどおりにつれ出すべし。

- ① 美容院に行くとき一緒に！
- ② 買い物や用足しも一緒に！
- ③ 定例お茶っ会も一緒に！

排除しない、これまで通りの仲間付き合い。  
→声かけ、見守りを強化



高齢を後ろ向きではなく  
前向きに捉えて生きがいに。  
自己実現達成の瞬間の様子



はすり恋崇憧 栗駒山登頂  
鈴木ちよの(80歳)